

グループ), 同一食中毒事例における患者 3 名と調理者 3 名の計 6 名の糞便から検出された 6 株 (B グループ), 同一人物の感染初期とその 7 日後の糞便から検出された 2 株 (C グループ) および同じ福祉関連施設において平成 18 年 4 月と平成 19 年 1 月の 2 回発生した集団感染症事例で同一人物 4 名から検出された計 8 株 (D グループ) を解析に用いた. [方法]: 食安監発第 1105001 号に従い NV の c DNA を作成し, カプシド領域 (C 領域) を増幅する G2SKF/R, ポリメラーゼ領域 (P 領域) を増幅する MR3/P3 および篠原等の報告した可変領域 (V 領域) を増幅する L1F/L7R の 3 種類のプライマーを用いて RT-PCR を行い, ダイレクトシーケンス法により遺伝子配列を決定し相同性を比較した. [結果]: A グループの 9 株は, 全て G II/4 類似株で, C, P および V 領域の塩基配列から, いずれも 3 事例と 6 事例の 2 グループにクラスター分類された. また, 同時期に発生した院内感染事例と隣接県のホテルで発生した感染経路不明の有症苦情事例から検出された NV は, 3 領域の塩基配列が 100%一致した. B グループの 6 株は, C 領域の 280 塩基, P 領域の 343 塩基および V 領域の 679 塩基がそれぞれ 100 % 同一であった. C グループの 2 株は, C 領域の 289 塩基, P 領域の 345 塩基および V 領域の 681 塩基がそれぞれ 100 % 同一であった. D グループの 8 株は, C 領域の解析結果から, NVG II/6 類似株 (4 月) と NVG II/4 類似株 (1 月) であった. [考察]: NV の遺伝子解析結果の疫学的解析への応用については, 今後, 更に多くの事例での検討が必要であるが, 既に報告されている様に異なる事例間の関連性の推定は困難であると思われた. 一方, 単一の調理者由来の食中毒事例における保健所の疫学調査結果を補完する目的では, その有用性が伺えた. [会員外共同研究者: 三浦美穂, 井料田一徳, 若松英雄 (宮崎県衛生環境研究所), 水元昭利, 田中清香 (高鍋保健所), 内倉由美子, 上原千枝 (延岡保健所)]

・山本正悟 (宮崎県衛生環境研究所)

○九州地域におけるリケッチア症

第 59 回日本皮膚科学会西部支部学会大会

シンポジウム

(2007 年 10 月 27, 28 日 宮崎市)

九州各県の地方衛生研究所等による調査で得られた情報を基に, つつが虫病と日本紅斑熱について紹介する.

1 つつが虫病

福岡県では筑紫地区や背振山系の山麓, 佐賀県では背振山系を中心とした東北部, 長崎県では西彼杵半島, 県中部・北部, 壱岐を中心とした全域, 熊本県では南西部, 球磨地区, 阿蘇地区及び中央部, 大分県では豊肥地域と日田地域を中心にそれぞれ患者が発生している. 九州南部は多発地域で, 宮崎県の中部以南や鹿児島県の本土域を中心とした広い範囲で発生している. 患者は, 11 月をピークに 10 ~ 12 月に集中的に発生するが, 1 月~春先あるいは晩春から夏にかけての発生も確認されている.

原因となる *Orientia tsutsugamushi* の血清型は主に Kawasaki 型と Kuroki 型で, これらに比べて少ないが, Karp 型による患者も確認されている. また, 長崎, 大分, 鹿児島県では Gilliam 型の分布を示す報告もある. 九州における主な媒介種はタテツツガムシで, Kawasaki 型と Kuroki 型を媒介する. フトゲツツガムシの分布も確認されており, Karp 型および Gilliam 型を媒介すると考えられる.

2 日本紅斑熱

鹿児島県の大隅半島地域での発生が特に多いが, 宮崎県の南部を含め, 沖縄県を除く各県で発生が確認されている. 患者は 4 ~ 12 月に発生し, つつが虫病の発生時期と一部重なる. また, 夏から初秋にかけての発生が多い傾向があるが, 春にも発生のピークが見られる.

Rickettsia japonica の媒介マダニ種に関する調査により, 鹿児島県ではフタトゲチマダニ, キチマダニおよびヤマアラシチマダニが, 宮崎県ではフタトゲチマダニとヤマアラシチマダニが, 福岡県北部ではヤマアラシチマダニが媒介種と推定されている.

・山本正悟, 岩切章, 三浦美穂, 御供田陸代^{*1}, 本田俊郎^{*1}, 千々和勝己^{*2}, 石橋哲也^{*2} 他

○九州地域におけるリケッチア症 (つつが虫病・日本紅斑熱) の発生状況と疫学的特徴